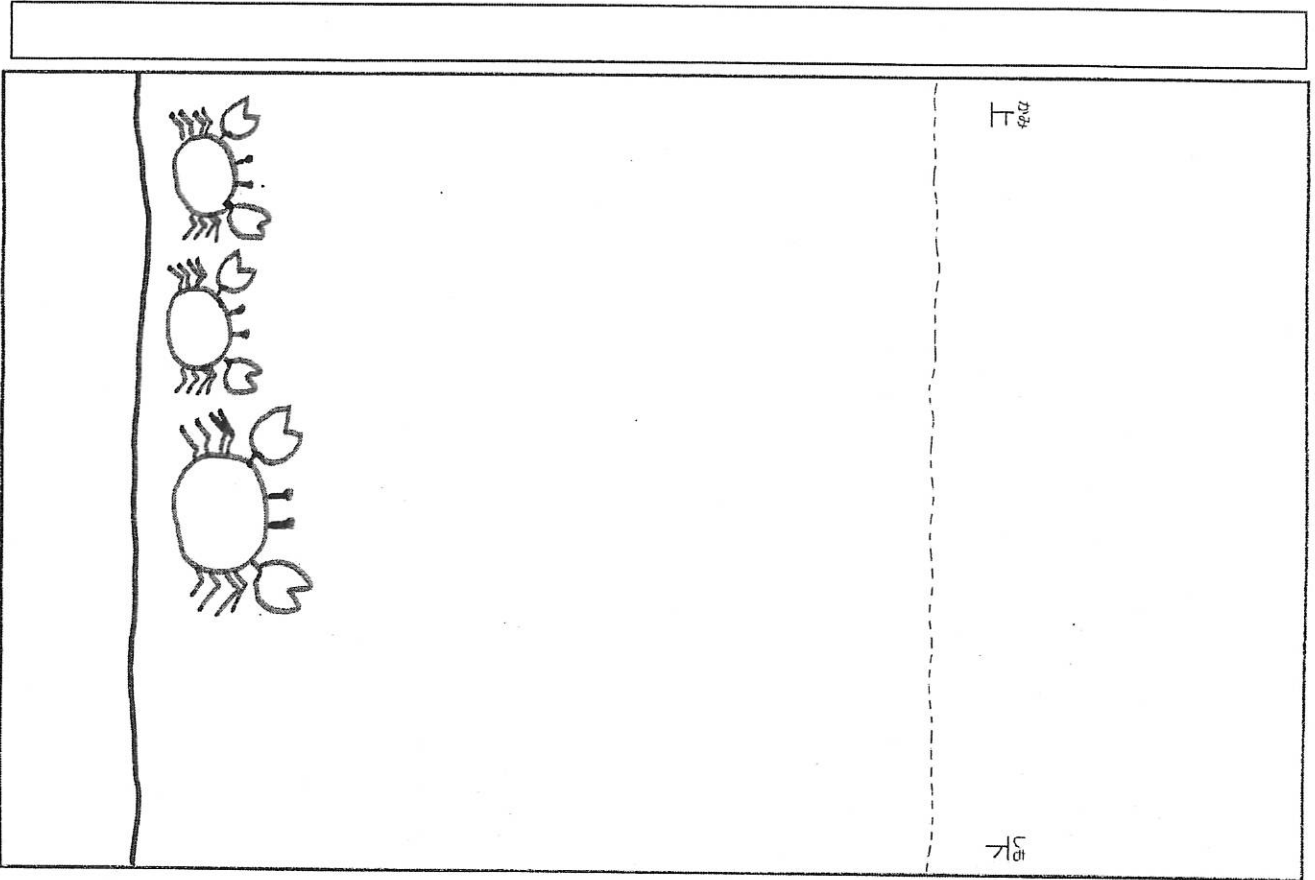


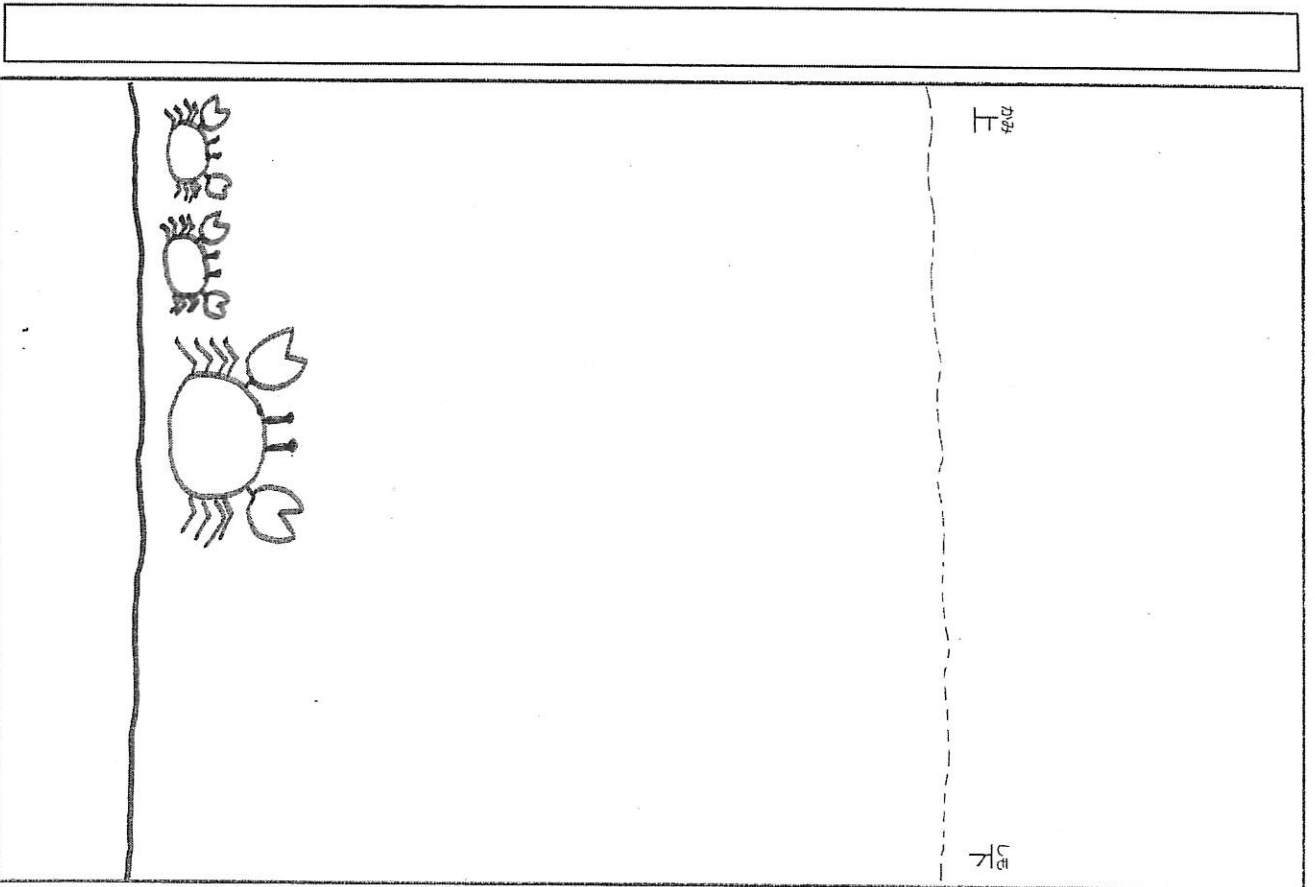
年	一九二六	一九三二	一九三二
歳	〇歳	小学六年	二十六歳
出来事・賢治の言動	長男として誕生。次々に災害	小学六年 石集めに夢中 中学一年 自然災害で農民たちは大変な苦勞 中学二年 また洪水	<p>「なんとかして農作物の被害を少なくし、人々が安心して田畑を耕せるようにできないものか。」必死で考えた。</p> <p>「そのために」</p> <p>それには、まず、最新の農業技術を学ぶことだ。」</p> <p>盛岡高等農林学校に入学</p> <p>卒業し、学者の道を断って花巻の農学校に先生になる。</p> <p>「生徒たちへのログゼ」</p> <p>田んぼの真ん中に、ひまわりの種を一つ植えた。</p> <p>「苦しい農作業の中に、楽しさを見つけ、工夫することに喜びを見つける。そして、」</p> <p>「ことが理想」</p> <p>大切な [] が亡くなる。</p> <p>悲しみのどん底で「銀河鉄道の夜」を書く。</p> <p>「暴れる自然にかつためには、みんなて力を合わせなければならぬ。力を合わせるには、たがいに [] が通い合っていないから。」</p> <p>「だ。ために、たぐさんの詩や童話を書いた。」</p>
作品	賢治の考え方	追い求めた理想	イーハトーヴの物語を通して

年	一九二四	二十九歳	賢治の理想は、世の中に受け入れられず、どの出版社でも断られ。自分で二冊の本を出すが出来ず、ひどい批評。↓傷つき、次の詩集を出すのをやめた。
年	一九二六	三十歳	農学校をやめ、「羅須地人協会」を作る。
年	一九三二	三十二歳	農家の若者たちに農業技術を教え、自分も耕しながら勉強した。歌やおどりを楽しんだり、みんなで毎日あれ地を耕したが、病気でね。こんだ。
年	一九三三	三十三歳	「羅須地人協会」を閉じる。
歳	三十三歳	三十三歳	病気が少しよくなると、起き出して村々を歩き回り、一人一人に教えるボランティア。
歳	三十五歳	三十五歳	石灰肥料会社の共同経営者になって、東北一帯を毎日飛び回ってセールスをする。
歳	三十七歳	三十七歳	「石灰肥料は土地改良に役立つので、それを広めることが」。
出来事・賢治の言動	旅先で発熱、花巻に帰るが寝たきりに。病氣とたたかう。	急性肺炎で呼吸ができないほど苦しいのに、	翌朝、血を吐いて亡くなる。
賢治の考え方			
作品			

十二月



五月



(8187) 「用更」の「十」画の「日」を「月」に置き換えてください。

甲 田 () 卯 辰 ()

()